

..... トビイロウンカの発生状況について .....

県内では7月11～15日にかけてセジロウンカの大量飛来が確認され、トビイロウンカも同時期に飛来しています。これに由来するトビイロウンカ成幼虫密度が今後高まると予想されます。現地では圃場での発生に注意し、基幹防除の徹底をお願いします。



1. 圃場での発生状況

8月12～16日にコシヒカリ圃場を中心に25株払い落とし調査を行いました。

トビイロウンカ	全域	( 東部 )	( 西部 )	平年値 ( 8月下旬 )
25株当たり虫数 :	2.0頭	( 3.65頭 )	( 0.81頭 )	2.5頭
発生圃場率 :	52.2%	( 65.0% )	( 37.5% )	21.1%
成虫比 :	98.9%	( 100% )	( 92.3% )	29.5%

トビイロウンカは、8月中旬現在、生息密度は平年並みですが、今年は本種の短翅率が高く、今後急激に増加する可能性があります。特に晩生品種については9月第1～3半旬の第2世代幼・成虫による被害が懸念されます。

広島地方气象台(8月20日発表)によると、「向こう1か月は気温は平年より高く、降水量は平年並み」の予報が発表されています。今後の気象条件はトビイロウンカの増殖に助長的ですので、圃場での発生に十分注意してください。

トビイロウンカの発生は圃場毎や圃場内でも大きく異なるので、圃場全体の状況を的確に把握し、発生予測パターンを参考に次世代若齢幼虫期の適期防除を徹底してください。

2. トビイロウンカの発生予測パターン

7月11日飛来群について実測・平年値を用いた有効積算温度計算から今後の発生予測パターンを作成したので調査・防除の参考にしてください。

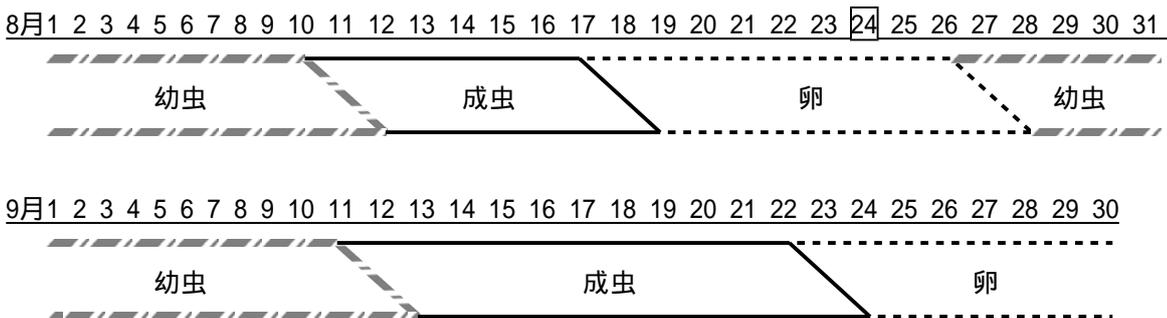


図1. トビイロウンカの発生予測(出雲市)  
(8月23日までは気温の実測値、以降は平年値を用いた)

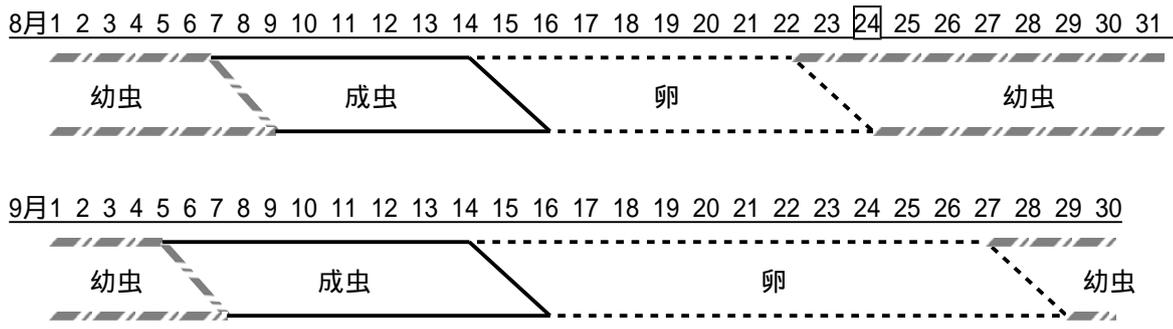


図2 . トビイロウンカの発生予測 (浜田市)  
 (8月23日までは気温の実測値、以降は平年値を用いた)

防除に当たっては、農薬の使用基準 (適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数) を遵守する。